



HAKUOH



NEWS VOL. 20

発行/白鷗大学 小山市大行寺1117 TEL: 0285-22-1111 http://hakuoh.jp

2面 ハワイ交流40周年を記念し野球の親善試合、新任教員紹介 他 3面 平成25年度決算報告 4面 女子バスケ新人戦で初優勝 他

アカデミーの源流で

学長 奥島孝康



もうかれこれ十四、五年も前のことになるが、大学の出張でギリシャのアテネを訪れる機会があった。ぼくはこの機会に、かねて一度は訪れたいと思っていた「アカデミア」の地を踏むことができた。まさに至福の時であった。

ここは、哲学学校(アカデミア)を開設したところである。現在、学校を意味する「アカデミー」という言葉は、この地の「アカデミア」から生まれた。それゆえ、ここはいわば、「学校の発祥の地」と言ってもよい。ぼくは、教師となった以上、一度はこの地を訪れ、プラトンがその師ソクラテスやその弟子アリストテレスと談笑しながら散策したり、若き弟子たちと議論を交わしながら歩いたりしたその場所に立ち、その風を肌で感じたいと願っていた。

ところが、アカデミアはぼくの持つ観光マップには見当たらない。そこで、観光タクシーの運転手に聞くと、「そんなところ訪ねる人はいないよ。このアテネには観光スポットはいっぱいあるから、そちらに行つたほうがいいよ。」とアドバイス(?)までしてくれる始末だった。それでもなんとか地図を調べてもらい、ようやくアカデミアにたどりつくことができた。

出かけてみると、そこは観光客など一人もいない、日比谷公園の三分の一足らずのアテネ市内でも珍しい公園だった。ぼくの中の頭の中で描いていた鬱蒼とオリブやスズカケの茂る神苑の面影はまるでない、そこそこどこにでもある手入れの行き届かない都市公園の一つでしかなかった。それで

も、その場に立って眼をつぶると、ユスティニアヌス帝(「ローマ法大全」を編集した有名な皇帝)によって閉鎖されるまで、900年にわたって存続したアカデミアでプラトンが弟子たちと議論している様子が想像され、ぼくは深い満足感にしばし時のたつのを忘れた。

もとより、当時のアカデミーと、現在のそれとはまるで異なる。しかし学問に対する姿勢についていえば、両者は深いところで一致している。学生諸君は、本学において何を学び、何に傾倒しようとも、学問に対する畏敬の念だけは失ってはならない。

幸い、本学からさほど遠からぬところに、室町時代に創立された「足利学校」がある。在学中に一度くらいはそこを訪れて、「坂東武士」の心意気を想像してみてもどうか。

国際交流

今夏の海外研修は、

毎年行っているアメリカ・ハワイ、アメリカ・インディアナに加え、歴史的建造物が多い学問の都市、映画「ハリウッド」のロケ地としても有名なイギリス・オックスフォードが新たに加わった。

英語コミュニケーション授業以外にも文化交流・体験プログラムが組まれ、3研修あわせ約100人の学生が体験する。

交換留学の派遣では、アメリカ・トライン大学へ3人、台湾・南台科技大学へ1人が8月より留学開始する。

今年3月に交流協定を結んだ、タイ・ニイダ大学院から交換留学生を迎えることになり、この9月からは、台湾、アメリカ、ブラジルの計4カ国13人になる。7月24日に行われた交換留

あらたにイギリス・オックスフォード大学での海外研修始まる!



交換留学修了式

学修了式では、10人の修了生が出席し、一人ひとり日本の生活について感想を述べた。アメリカ・カリフォルニア州立大学サンバーナーデーノ校のジャバリ・ルイス君は、「白鷗大学での1年間は沢山の人の出会い、そして支えられここまで来ることができました。皆さんに感謝しています。とても充実していました。」と流暢な日本語で話した。

「自分が「いること」のために」

副学長 北山修

白鷗大学の建学の精神である「PLUS ULTRA(プルスウルトラ)」は、「さらに向こうへ」

一歩踏み出すことを意味しています。本学の創設者である上岡一嘉初代学長自ら制定したモットーであり、今の足場を踏まえ、もう一歩前に踏み出すこと、それが「プルスウルトラ」の精神です。一歩踏み出す前



に、さらに一点心がけていただきたいことがあります。私の考えでは人間の幸せには二つあります。それは「すること」と「いること」です。DoingとBeingです。Doingというのは「すること」で、「踏み出す」というのも「すること」であり、大学で「すること」とは勉強すること、スポーツをすること、音楽を演奏することですが、それは確かに大事な楽しみであり、課題であり、その機会が本学にも満ち満ちています。もうひとつは「いること」の幸せであり、Beingの幸せであり、私は、この「いること」を楽しむには何よりその居場所となる環境が大事だと考えるのです。この白鷗大学は「いること」を支えてくれる素晴らしい環境を有しております。それは、このキャンパス、特にキャンパスの傍らで流れる思川が見える景色は実に素晴らしい。思川のほとりに桜が咲きますが、これもまた見事です。夏の花も、そのまま浮世絵から飛び出してくる輝きを放ちます。

このような私の心を育む環境を、抱える環境 holding environment 促進的環境 facilitating environment と言います。日本語ではそこに「居場所」があるということにすぎません。そこにしっかりと「いること」ができることで、自分や私が誕生するので、自分や私が誕生するのですね。そして、その後には皆さんは「歩み出す」「踏み出す」のです。皆さんは、青年期の真つ最中であり、これから自分を完成せねばならないのであり、ここには自分の居場所を得るための居場所を得ることが大事です。そのためには、「すること」も大事ですが、この小山に居場所を見つけない限りならぬ。白鷗大学はそういう環境も、提供します。そして、その後にはそこから「一歩踏み出す」ためのエネルギーを蓄え、方向を見つけていく。

現代は「不確実性の時代」と言われ、明日が、未来が見えない時代です。そのような時代には、これを生きていく必要があるのです。その自分を作るのが、自分が「いる」ための居場所なので、いろいろな「すること」が多いこの世ですが、また自分のない人が多い世であっても、自分がここに「いること」ができれば、青年は「自分」を作り、自分を発見することになるでしょう。

1171人の新入生を迎え入学式

2014年度入学式が4月1日、第一体育館で行われ、来場された数多くの保護者が見守る中、1171人(経営学部412人、法学部272人、教育学部482人、大学院5人)が白鷗生として新たな学生生活をスタートしました。

挨拶に立った北山修副学長は、「白鷗大学で、自分の居場所を見つけ、そこで自分を発見し、そこから一歩前に踏み出してほしい」と新入生にエールを送った。



入学式後の部活動勧誘の様子

学位記・卒業証書 1088人に授与

2013年度学位記・卒業証書授与式が3月15日、保護者やご来賓の方々が多数出席され、第一体育館において行われました。1088人の卒業生たちは、友人たちと白鷗大学での学生生活を振り返りながら、再会を誓い、社会に飛び立っていきました。

2009年5月に日本で始まった裁判員制度。アメリカや英国で採用されている陪審制度との違いを、7月8日に研修のため白鷗大学を訪れたカリフォルニア州立大学サンバナディーノ校(CSUSB)の学生たちに、本学法学部の学生が英語で説明を行った。その

裁判員制度 VS 陪審制度

(カリフォルニア州立大学サンバナディーノ校との交流)



ハワイ学生選抜と本学の硬式野球部

ハワイ交流40周年を記念し野球の親善試合

7月12・13日、ハワイの学生選抜チーム「ハワイ・アイランド・ムーバーズ」と本学の硬式野球部が白鷗球場で親善試合を行った。これは本学とハワイの交流40周年になったことや、今年本学が所在する小山市が「スポーツ都市宣言」をしたことを記念して実現した。

12日の試合終了後には、野球教室も開催し、小山市内の中学生など100人が参加した。ムーバーズと本学の硬式野球部の学生が協力し合い、野球の技術指導に当たった。ムーバーズは、1984年にハワイ州の日系3世のムーバー株式会社代表ドナルド・タカキ氏(ハワイ観

光協会前会長、ホークツリーインターナショナル会長)が中心となり、ハワイ州に縁のあるアメリカ合衆国の大学野球選手の野球技術の研鑽と日本文化との触れ合いを目的に、メセナ事業として立ち上げた。毎年7月に日本各地で試合を行っている。 ※白鷗大学とハワイ交流

白鷗大学の前身である白鷗女子短期大学創立の1974年からハワイ州との交流が始まり、翌年からはハワイ研修を開始。今年で40回目を迎え、今年までに延べ3000人以上の学生が参加している。また1992年から、本学のハンドベル部がハワイで毎年公演を行っており、

2013年2月に、ハワイ州知事とホノルル市長から感謝状が贈られた。現在、ハワイ州立ハワイ大学マノア校、ハワイ大学コミュニケーションカレッジと協定を締結している。



小学生に野球の技術指導をするハワイ選抜の学生



模擬法廷教室にて

後、日本の司法制度の現状をクイズ形式で出題したり、質疑応答では、好きな和食や日本語、行ってみたい場所などの質問もあり、和やかな雰囲気でも両校の交流を図った。

同サークルは、学生主体の国内ボランティアサークルとして、平成25年6月に発足した。主に震災復興への取り組みや、地域の方々との交流を目的として約40人のメンバーが活動している。 全国47都道府県から東北へバスを出し、復興と防災のプロジェクト「きつかけバス47」にも参加し、被災地での活動も行った。また、県が管理する道路の環境美化活動を住民や企業がボランティアで行い、行政が支援する「愛ロードとち

地域貢献 学生によるボランティア活動!

「UN-UNI(アン・ユニ)」



街に潤いを与える学生たち

ぎ」事業を委託され、観覧橋上の花壇の管理と防犯パトロールを週二回行っている。 その他にも、陸前高田ドキュメンタリー「あの街に桜が咲けば」自主上映会の実施や、ゴミ拾いの実施(クリーン大作戦)、市民討議会へのオブザーバー参加など幅広く活動中。 今後は、夏合宿としての被災地訪問(南相馬・南三陸)を予定している。

【ビジネス開発研究所】 第63回経営セミナー 「伊藤園の企業戦略とCSR」(講師|| 伊藤園取締役CSR推進部長 菅谷秀光氏、6月16日) 【法政策研究所】 シンポジウム「北関東の法律問題―夫婦・親子をめぐる法的問題―」(講師|| 新井弘明氏・石島力氏・竹澤隆氏、12月2日) 講演会「台湾の政治発展と司法制度について」(講師|| 台湾の元法務大臣・城仲模氏、5月28日) 【情報処理教育研究センター】 第31回公開講座「ビットコインと貨幣を考える」(講師|| 本学経営学部・市川千秋教授、7月16日)

講演会・セミナー等 実施報告

新任教員紹介

菅野 嘉則
経営学部 特任教授
映像メディア

ネットが、暮らしやビジネスを変えています。このメディア転換期に、新しいサービスやコンテンツを生み出すための体系的な知識を学び、創造的な活動をするためのお手伝いをします。

花立 文子
法学部 教授
財産法

講義を通して、物事を多方面から見て客観的に判断することの大切さ、創意工夫された法律のおもしろさ、論理的説明が面倒なようで実は楽しいことを知ってもらいたいと考えています。

比山 節男
法務研究科 教授
行政法学

東日本に居を定めて勤務するのは初めてですが地形の奥深さや広がりを感じています。経済地理面で優位な場所に位置する白鷗大学での勤務を公私共満喫したいと思っています。

山城 崇夫
法学部 教授
民事訴訟法

一介の法学教師であっても学生の導きの星(ブラックホール?)でありたい。系統的に法知識を教え、問題を考えるということはそこから離れない我慢であることを伝えたい。

樺 博行
法学部 教授
英米法

社会の中で人が幸せに生きていくために法があります。様々な角度から日本の法を見つめると、理解が一層深まります。そして社会貢献ができる人になれると思います。

鈴木 宏枝
教育学部 准教授
英語圏文学・文化

英語や英米文学を担当。絵本・児童文学に関心があります。読書は地味ですが、大学でのあらゆる勉強の基礎となる知的訓練です。読むことを楽しみ、共に学んでいきましょう。

高橋 義人
法学部 准教授
憲法

大学では自分で考える力を身につけることが一番大切ですが、これはそれほど簡単でもありません。物事を多角的に捉えて、批判的に思考する姿勢とともに学びたいと思います。

新井 弘明
法務研究科 講師
民事法

皆さんが、大学生活を通じて、他者の考えを理解し、それに対して一定の配慮ができる優しさやバランス感覚を身に付けられるように、そのお手伝いをしたいと思っています。

土橋 久美子
教育学部 講師
教育実習(幼稚園) 担当

教育とは「自分の知らない世界を知ること」だと私は思います。保育現場での経験を大学で伝えることで、子どもの世界を体感し、新しい学びに繋げていくことを願います。

宇梶 和代
教育学部 講師
保育実習担当

チームの中で認め合い、自分を活かす授業を通して、即戦力になりうる力を培おう。目的意識を強く持ち、興味のあることにチャレンジして、自分のストロングポイントにしよう。

学校法人白鷗大学 平成25年度決算報告

【消費収支計算書】

消費収支計算書は、経営の状況について表したものであり、企業会計における「損益計算書」に近似したものです。平成25年度の消費収支差額は12億3,732万円の支出超過となりました。

平成25年4月1日から平成26年3月31日まで

収入の部 (単位:円)

科目	予算額	決算額	差異
学生生徒等納付金	5,802,251,400	5,792,045,060	10,206,340
手数料	159,360,000	167,761,550	△8,401,550
寄付金	30,300,000	37,694,428	△7,394,428
補助金	1,047,448,000	1,049,667,169	△2,219,169
国庫補助金	394,017,000	396,066,471	△2,049,471
地方公共団体補助金	653,431,000	653,600,698	△169,698
資産運用収入	334,105,000	373,280,677	△39,175,677
資産売却差額	56,800,000	63,054,476	△6,254,476
事業収入	25,010,000	24,614,161	395,839
雑収入	159,148,000	182,382,007	△23,234,007
帰属収入合計	7,614,422,400	7,690,499,528	△76,077,128
基本金組入額	△1,483,050,000	△1,388,462,684	△94,587,316
消費収入の部合計	6,131,372,400	6,302,036,844	△170,664,444

一般寄付金のほか現物寄付金を含むため、資金収支計算書と異なります。

大学は経常費一般補助金2億7,427万円、特別補助金1億1,975万円でした。

固定資産の取得による第1号基本金の組入額です。

支出の部

科目	予算額	決算額	差異
人件費	3,723,191,168	3,717,325,919	5,865,249
教育研究経費	2,863,767,317	2,796,878,094	66,889,223
管理経費	714,511,241	687,500,912	27,010,329
借入金等利息	23,128,000	23,127,750	250
資産処分差額	314,832,451	314,456,843	375,608
徴収不能額	500,000	70,200	429,800
予備費	(64,362,977)	5,637,023	20,961,729
消費支出の部合計	7,645,567,200	7,539,359,718	106,207,482
当年度消費支出超過額	△1,514,194,800	△1,237,322,874	△276,871,926
前年度繰越消費支出超過額	△2,846,917,762	△2,846,917,762	
翌年度繰越消費支出超過額	△4,361,112,562	△4,084,240,636	

減価償却費を含んでいるため資金収支計算書と異なります。

基本金組入前においては、消費収入超過額が1億5,114万円となります。

【資金収支計算書】

資金収支計算書は、1年間の収入・支出ごとの資金の流れの総額を表したものであり、企業会計における「キャッシュ・フロー計算書」に近似したものです。資金収支の総額は131億3,516万円であり、平成26年度への繰越支払資金は21億9,661万円となっております。

平成25年4月1日から平成26年3月31日まで

収入の部 (単位:円)

科目	予算額	決算額	差異
学生生徒等納付金収入	5,802,251,400	5,792,045,060	10,206,340
手数料収入	159,360,000	167,761,550	△8,401,550
寄付金収入	28,700,000	33,035,959	△4,335,959
補助金収入	1,047,448,000	1,049,667,169	△2,219,169
国庫補助金収入	394,017,000	396,066,471	△2,049,471
地方公共団体補助金収入	653,431,000	653,600,698	△169,698
資産運用収入	331,705,000	370,850,857	△39,145,857
資産売却収入	473,000,000	492,258,982	△19,258,982
事業収入	25,010,000	25,043,661	△33,661
雑収入	159,148,000	182,382,007	△23,234,007
前受金収入	1,142,920,000	1,256,631,347	△113,711,347
その他の収入	1,574,087,920	1,569,716,633	4,371,287
資金収入調整勘定(注)	△1,335,136,980	△1,390,132,089	54,995,109
前年度繰越支払資金	3,585,900,287	3,585,900,287	0
収入の部合計	12,994,393,627	13,135,161,423	△140,767,796

受取利息配当金と施設設備利用料による収入です。

有価証券の売却・償還収入です。

特定資産の償還収入です。

支出の部

科目	予算額	決算額	差異
人件費支出	3,695,391,168	3,688,730,919	6,660,249
教育研究経費支出	2,190,367,317	2,129,378,160	60,989,157
管理経費支出	605,511,241	578,318,133	27,193,108
借入金等利息支出	23,128,000	23,127,750	250
借入金等返済支出	113,880,000	113,880,000	0
施設関係支出	2,485,682,350	2,526,303,676	△40,621,326
設備関係支出	237,567,584	217,631,307	19,936,277
資産運用支出	1,491,000,000	1,611,837,108	△120,837,108
その他の支出	374,308,592	405,556,145	△31,247,553
予備費	(65,030,460)	4,969,540	4,969,540
資金支出調整勘定(注)	△219,078,416	△356,218,977	137,140,561
次年度繰越支払資金	1,991,666,251	2,196,617,202	△204,950,951
支出の部合計	12,994,393,627	13,135,161,423	△140,767,796

大学野球場建設、高校校舎建設及び高校土地購入によるものです。

大学スポーツ器具、図書購入及び大学コンピュータ教室更新によるものです。

特定資産等の有価証券償還による代替購入によるものです。

(注) 資金収入調整勘定及び資金支出調整勘定について

学校法人会計における資金収支計算の目的は、当該会計年度の諸活動に対応するすべての収入及び支出の内容当該会計年度における支払資金の収入及び支出とそてん末を明らかにすることとされています。そのため収入・支出ともに調整勘定が設けられています。なお、資金収入調整勘定には期末未収入金及び前期末前受金、資金支出調整勘定には期末未払金及び前期末前払金を計上しています。

平成25年度の決算についてご報告いたします。この決算書は法人全体のものです。

事業の概要について

◇大学
本年度より、第五代学長として元早稲田大学総長の奥島孝康氏が就任し、新学長のリーダーシップの下、新たな教学体制づくりを始めました。

学生支援においては、東日本大震災の被災学生に対する学費減免を継続しています。
教育活動においては、平成21年度に受けた(財)大学基準協会の認証評価における指摘事項等の改善、具体的には、教員の教育・研究活動の改善(FD)支援として外部FD研修会への積極的な参加を促すほか、授業評価アンケートの活用、成績評価基準・結果等の公開を行いました。また、学生の資格取得支援及び就職活動支援に係り、進路支援センターを設置し、教職員協同の新たな組織改革を行いました。

学生向けの施設設備としては、スポーツの教育環境充実を目的として小山市の文化の森構想跡地に新たに野球場を建設したほか、情報教育の推進・充実のため全学的にコンピュータの導入を行いました。

◇高等学校・中学校

教育活動においては、硬式野球部が関東大会で優勝し、初めて春の選抜高校野球大会に出場しました。また、平成25年度卒業生の大学合格実績は、本校舎・富田校舎を合わせ、京都大学等国立大学に60人合格、早稲田大学、慶應義塾大学等私立大学に604人合格という前年度を上回る好結果となり、平成26年度入学手続き者数については4年ぶりに600人を超え、減少傾向に歯止めがかかりました。

施設設備面では、平成27年1月の完成に向け、新校舎(教室棟・体育棟)の建設が平成25年10月着工しました。

決算の概要について(法人全体)

平成25年度における消費収支の概況は、収入面では学生生徒納付金(36百万円減)や寄附金(3百万円減)、補助金(73百万円増)等が前年度に比して減少しましたが有価証券及び引当資産等の運用による受け取り利息及び配当金等資産運用収入(68百万円増)、雑収入(95百万円増)の増加により、帰属収入全体としては前年比11.3百万円増となりました。

支出面では、人件費(12.3百万円増)、教育研究経費(12.7百万円増)、管理経費(12百万円増)、高等学校の校舎建替に伴う資産処分差額(31.4百万円増)などの支出が増加し、消費支出全体としては前年比57.1百万円増となりました。

この結果、帰属収支差額は15.1百万円となり、前年比45.8百万円減となりました。貸借対照表の状況は、資産の部合計が35,444,868,265円となり、前年度比27.4百万円増となりました。主な内容

【貸借対照表】

貸借対照表は、学校法人の期末における資産と負債・基本金・消費収支差額の状況を表示して、財政状態を表しています。資産総額から負債総額を差し引いた「正味財産」は前年度より1億5,114万円増加し、321億5,068万円となりました。

平成26年3月31日

科目	本年度末	前年度末	増減
(単位:円)			
資産の部			
固定資産	31,400,141,627	29,842,310,507	1,557,831,120
有形固定資産	21,510,877,435	19,854,065,910	1,656,811,525
土地	5,781,144,474	5,346,085,538	435,058,936
建物	11,660,670,665	12,196,911,428	△536,240,763
構築物	786,551,436	264,369,935	522,181,501
教育研究用機器備品	662,552,508	694,652,989	△32,100,481
その他の機器備品	124,804,492	106,164,066	18,640,426
図書	1,154,817,025	1,121,865,636	32,951,389
車両	66,939,655	59,701,318	7,238,337
建設仮勘定	1,273,397,180	64,315,000	1,209,082,180
その他の固定資産	9,889,264,192	9,988,244,597	△98,980,405
借地権	291,394,657	291,394,657	0
退職給与引当特定資産	660,645,603	620,056,000	40,589,603
減価償却引当特定資産	2,112,842,877	1,811,382,677	301,460,200
校舎改築引当特定預金	2,300,000,000	2,700,000,000	△400,000,000
有価証券	4,296,700,800	4,341,012,500	△44,311,700
その他	227,680,255	224,398,763	3,281,492
流動資産	4,044,726,638	5,328,252,355	△1,283,525,717
現金預金	2,196,617,202	3,585,900,287	△1,389,283,085
有価証券	1,538,231,644	1,565,492,195	△27,260,551
その他	309,877,792	176,859,873	133,017,919
資産の部合計	35,444,868,265	35,170,562,862	274,305,403
負債の部			
固定負債	1,478,690,104	1,562,919,104	△84,229,000
長期借入金	813,880,000	927,760,000	△113,880,000
退職給与引当金	664,810,104	635,159,104	29,651,000
流動負債	1,815,492,165	1,608,097,572	207,394,593
短期借入金	113,880,000	113,880,000	0
前受金	1,256,631,347	1,183,808,980	72,822,367
その他	444,980,818	310,408,592	134,572,226
負債の部合計	3,294,182,269	3,171,016,676	123,165,593
基本金の部			
第1号基本金	33,444,926,632	31,656,463,948	1,788,462,684
第2号基本金	2,300,000,000	2,700,000,000	△400,000,000
第4号基本金	490,000,000	490,000,000	0
基本金の部合計	36,234,926,632	34,846,463,948	1,388,462,684
消費収支差額の部			
翌年度繰越消費支出超過額	△4,084,240,636	△2,846,917,762	△1,237,322,874
消費収支差額の部合計	△4,084,240,636	△2,846,917,762	△1,237,322,874
負債の部 基本金の部及び消費収支差額の部合計	35,444,868,265	35,170,562,862	274,305,403

土地と図書以外の有形固定資産については、減価償却累計額を控除して表示しています。

減価償却及び高校校舎取壊しによる減少です。

高校の校舎新築工事着手金です。

将来の校舎改築等に備えるためのもので今年度高校で4億円を取崩しています。

平成26年度返済予定額を短期借入金へ振替えています。

固定資産の維持取得に係る基本金(校地、校舎、機器備品、図書などのうち自己資金で取得した固定資産の価額)です。

将来取得する固定資産の取得に充てる金銭の額で今年度4億円を第1号基本金へ振替えています。

必要な運転資金維持に係る基本金です。

完成した白鷗球場。右手前が投球練習場と守備練習場



プロ野球選手を7人輩出している硬式野球部。平成26年2月に念願の野球場(人工芝・両翼98m・センター122m)が完成した。投球練習場(5レーン)と守備練習場(50m×50m)も併設されている。選手たちの練習環境も良くなり、更なる活躍が期待されている。

白鷗球場完成!

硬式野球部

公式戦でも使用されるので、白鷗球場にご来場いただき野球部への応援をお願いしたい。

公式戦結果

- 硬式野球部
関甲新学生野球連盟 平成26年度春季1部リーグ戦 2位
- 女子バスケットボール部
第48回関東大学女子バスケットボール選手権大会 3位
第4回関東大学女子バスケットボール新人戦 優勝
【準決勝】白鷗大学 82-62 東京医療保健大学
【決勝】白鷗大学 79-78 早稲田大学
- 男子バスケットボール部
第63回関東大学バスケットボール選手権大会 7位
- サッカー部
栃木県大学サッカー選手権大会優勝(5月4日~6日)
⇒栃木トヨタカップ出場決定戦(天皇杯栃木県最終予選)
【準決勝】白鷗大学 0-5 ヴェルフェたかはら那須
- 軟式野球部
北関東大学軟式野球連盟 平成26年度春季リーグ戦決勝トーナメント大会
【決勝】白鷗大学 1-2 作新学院大学

女子バスケ 新人戦で初優勝!



表彰状を手にして喜ぶ選手たち

女子バスケットボール部が、6月1日(22日まで開催された)「第4回関東大学女子バスケットボール新人戦」において初優勝を果たした。個人賞では、上原もなみさん(教育学部2年)がベスト8賞を、林咲希さん(同)が最優秀選手賞と77点で得点王に輝いた。

日本代表候補に選出

本学女子バスケットボール部の鶴見彩さん(教育学部4年)と林咲希さん(同学部2年)が、第28回ユニバーシアード日本代表候補選手に選ばれ、第一次強化合宿に参加した。鶴見さんは「目の前のできることをしっかりとやり、代表に選ばれるよう頑張る」と力強く語り、林さんも「自分のプレースタイルが出せるように心掛けたい」と代表入りに意欲を見せた。また、佐藤智信監督が、同代表のチームリーダーに就任した。



左:鶴見さん、右:林さん

活躍する陸上部インターナショナル

陸上部の菊地優子さん(教育学部4年)は、7月6日に開催されたホクレンディスタンスチャレンジ網走大会で、女子5000mに出場し、日本選手権A標準を突破する15分39秒53のタイムで自己記録も更新した。同じく陸上部の小澤夏美さん(同学部2年)は、3月22日にウガンダ共和国のエンテベ市で開催された第19回世界大学クロスカントリー選手権大会に日本代表として6000mに出場し、21分30秒63のタイムで6位入賞した。菊地さんは「昨年、全日本大学女子駅伝大会の出場を逃して悔しい思いをした。今年はメンバーも揃っているの、全日本に出場しシード権獲得を目標にしたい」と思いま



左:菊地さん、右:小澤さん

Future x Future

卒業生に聞く社会人生活

白鷗大学の同窓会「Future x Future」主催の「Future x Future(フューチャー)卒業生に聞く社会人生活」が開催されている。これは、社会人となった卒業生と在学生の交流の場として、平成26年度は4回開催予定。就職活動につながる仕事の話や、在学中に取り組んでいたほうが良いことなど、幅広く意見交換ができる機会として、各学部の1年生から4年生までの学生が参加している。また、卒業生同士のネットワーク作りにもつながり、名刺交換をしたり、お互いの職場の話などを通じて積極的に交流を図っている。今後は、平成27年1月10日(土)と平成27年3月7日(土)を予定している。

教員採用試験

過去最多の112人が合格!

※臨時的任用除く

公務員

国家公務員含む68人合格

民間企業

就職率91.4%

教育学部10周年を迎え、その躍進が著しい。2013年度の教員採用試験合格者(臨採除く)は112人(現役44人・既卒68人)で、飛躍的に合格者数を伸ばしている。県別では栃木県で55人、埼玉県で20人、千葉県と宮城県で各5人と続き、福島県や青森県、岩手県など東北地方の合格者も増えてきた。

一方、公務員試験は合格者68人で、前年度に比べて合格者数は若干減ったものの、国家公務員3人、栃木県警察本部15人、栃木県職員7人、栃木県内市町村職員8人など、着実に合格者を輩出している。

一般企業の就職については、就職活動は依然厳しい状態が続くながらも、景気回復の兆候もみられ、就職率は

教員採用試験合格者数の3年間の推移(既卒者を含む)



91.4%(※)であった。 ※就職率は、就職決定者(正規または1年以上)を就職希望者(進学者などを除く)で割り算し、卒業生数で割り算した場合は80.5%。

合格者の内訳	
小学校教諭	92人
中学校(保健体育)	5人
中学校(英語)	5人
中学校(社会)	2人
中学校(その他)	2人
高等学校(保健体育)	1人
高等学校(公民)	1人
特別支援	4人
合計	112人

プルスウルトラ教員の会(卒業生)

「プルスウルトラ教員の会(会長・鈴木美紀さん)」は、白鷗大学を卒業後に小学校や中学校などで教員として働くメンバーで組織され、総会や懇親会を通して就職現場における卒業生同士の交流と情報交換を行っている。さらに、教員を目指す在学生へのサポート活動も行っており、2月8日には、鈴木さんはじめ教員の会のメンバー3人が講師となり「在学をバックアップ!」学生に講演会を開催し、講演会終了後には、卒業生と在学生の懇談会を行った。参加した学生は、「先輩の話を生で聞くことができ、質問にも優しく教えてくれるので、とても役立ちました。」と好評。教育学部設置から10年が経ち、卒業生と大学が一体となり、今後の教育学部を盛り上げていく。